

企画展

共鳴、あるいは不協和音

新潟市美術館と新津美術館両所蔵品による

ごあいさつ

新潟市美術館は、美術を「みる・つくる・語る」機能を備え、市民に開かれた美術館を目指して、1985年に開館しました。以来、国内外の美術動向を紹介する特別展をはじめ、市民の創作活動や、美術史理解を後押しする講座などを開催。作品収集にも力を入れ、パブロ・ピカソなど西洋近現代美術の巨匠や、日本を代表する現代美術家・草間彌生、地域ゆかりの画家・阿部展也の作品など、5147点（2024年3月現在）を収蔵し、コレクション展で公開してきました。

一方、新津市美術館は、郷土の画家・笹岡了一の作品163点がご遺族から新津市に寄贈されたことや、金津丘陵ふれあい文化ゾーン整備事業などを契機に、1997年に誕生しました。開館時の方針として、積極的な作品収集を行わないこと、「従来の美術作品展示の枠を超えた」多彩な事業を展開することが掲げられ、デザインや絵本をテーマにした展覧会、能の公演、美術館建築を活かしたパフォーマンス等も実施してきました。2005年、新潟市と新津市を含む13市町村の合併により、新潟市新津美術館に改称して現在に至ります。

共に新潟市立の施設となって約20年間、2つの美術館は人材や運営面の連携を進めて参りました。本展覧会は、両館の個性と共通点に焦点を当てる初めての試みとして、所蔵する絵画から彫刻、写真、プロダクトデザイン、さらには美術館建築、開館当初のイベントまで、約60件を紹介いたします。

両館が一緒になって奏でる音は、美しい共鳴となるのか、あるいは鮮烈な不協和音なのか。少なくとも、ふたつの音色がそれぞれに際立つ様子をお示しできればと思います。そして、ご来場のみなさまにとって、本展覧会が、所蔵品や両美術館に対する新たな発見の機会になれば幸いです。

新潟市新津美術館

新潟市美術館を設計した建築家・前川國男は、敷地奥の斜面と美術館の間にブナと熊笹を植え、「山の庭」と名づけました。来館者が、特別展からコレクション展の会場へと進む合間に、ガラス越しに「山」を眺めて、四季の移ろいを感じられる配置になっています。開館9年目の1994年には、新潟市野外彫刻大賞の招待作品として、最上壽之《ツイツイフラフラオンブニダッコ》が、「山」の麓に設置されました。

新津美術館を設計した初代館長・横山正とアルセッド建築研究所にとって、周辺環境との一体感は設計テーマのひとつでした。実際、大階段を登りアトリウムの頂上に立つと、ガラス越しに、美術館裏手の古津八幡山遺跡の丘陵へと視界が開け、周囲の地形を体感することができます。

本展覧会の会期中、新潟市美術館は改修工事のため「山の庭」を楽しむことは不可能です。冬季の古津八幡山遺跡も気軽な「登山」は叶いません。この時期を、展示室と「裏山」とを想像の中で行き来する好機と捉え、本セクションでは、最上作品をはじめとする新潟市美術館の野外彫刻と、新津美術館所蔵の「山」を表した作品などを取り上げます。といっても、野外彫刻は持つてくることはできませんので、マケット（小型の試作バージョン）を展示します。制作中の彫刻家が、アトリエと設置場所とを想像の中で行き来しながら重ねた試作を、追体験いただければと思います。

セクション2 草間彌生と花々

近年、南瓜の野外彫刻や色鮮やかな連作絵画を発表し、幅広い世代に注目される現代美術家・草間彌生。本セクションでは、新潟市美術館と新津美術館の所蔵品より、花や植物がテーマの作品を中心に展示します。植物のイメージは、南瓜に限らず、草間の創作初期から繰り返し登場します。とりわけ1980年代には、《花粉》(1984年)のように、男性生殖器を思わせる布製突起物と組み合わせ、雄蕊や花粉を表したオブジェが数多く発表されました。版画作品《開花》や《花と蝶》(共に1995年)とあわせて見ると、花が、草間にとって、魅惑的であると同時に、静かに蠢くエネルギーを帯びた存在であることが窺えます。

草間作品とあわせて、新津美術館が所蔵する花や植物に関する作品も紹介します。「小さな花が寄り集まって咲き競う」佇まいに惚れ込んで、東松照明が撮影した日本各地の桜。花卉の生々しい質感を捉えた秋山庄太郎の「鬱金香 チューリップ」連作。そして、シンプルな色面構成で植物の力強さを表した張替正次の絵画。近い対象に、それぞれの視点で向きあった表現を見比べていただければと思います。

セクション3 美術館に夜の灯り

新津美術館は、開館時、作品収集を積極的には行わない方針を掲げました。それは、例えば、著名作家の作品を高額で購入するよりも、新進気鋭の現代美術家の展覧会や、美術に限らない多彩な分野のイベントに予算を割くことを狙ったことでした。実際には、以下の大竹伸朗や倉俣史朗の作品をはじめ、開催した展覧会出品作などを収蔵し、2024年3月時点で870点のコレクションが形成されています。

大竹伸朗《日本景／夏の海》は、ネオン管と廃材看板からなるインスタレーション作品です。当館で1998年に開催した個展「大竹伸朗『新津 あいまいで私が日本』」のために制作されました。同展は、現代美術の最先端で活躍する作家を当館に招聘したシリーズ企画展の第1弾であり、大竹にとっても、公立美術館での初めての個展となりました。

倉俣史朗は、数々の斬新な家具や店舗デザインを手掛けたデザイナーです。本セクションのガラス製テーブル天板は、東京・乃木坂にあったバー「ルッキーノ」のカウンターとして製作されたもので、倉俣生前の割れガラス家具として希少な現存例です。洗面化粧台は、トステムのためのデザインで、1996年、アクシスギャラリー（東京・六本木）での倉俣の回顧展用に再現された1点です。どちらも、ご遺族と交流のあった初代館長・横山正を介して、当時建設中だった当館が譲り受けました。

ここでは、暗がりでごそ本来の魅力を発揮するネオン管やバーカウンター、両美術館の照明器具等をあわせて展示し、夜のムード漂う空間を提示します。

セクション4 作品としての美術館

新津美術館初代館長の横山正は着任時、東京大学教養学部教授として数寄屋建築や東西の庭園文化、近現代美術など、幅広い分野を研究すると共に、東京大学教養学部美術博物館の企画運営にも携わっていました。当時の新津市長・小林一三とは、以前から交流があり、結果として、構想の初期段階から当館に関わることとなりました。加えて、美術館建設の際には、アルセッド建築研究所〔代表：三井所清典〕と共同で、その設計を担いました。

横山と三井所の連名によるテキスト「開かれた美術館を求めて」（『新建築』1998年1月号収録）には、「美術品購入の予算を組まない」という新津市の方針を前向きに受け止めるとともに、近隣市町村の既存施設とは「異なる性格づけ」を意識して、「従来の美術品展示の枠を超え」「現代のアートの諸ジャンル、環境芸術、インスタレーション、さまざまなパフォーマンス、音楽にかかわる催し、演劇などに対応可能な空間の創造」に舵を切ったことが記されています。

本セクションでは、横山館長のもと、建築と事業が一

体となって展開された開館当初の当館の取り組みを、代表的な「近隣市町村の既存施設」であった新潟市美術館と対比しながら、紹介します。美術館を設置した自治体（新潟市と新津市）、運営方針を実現する場をデザインした建築家、事業の企画運営を担う館長以下学芸職員など、関係者それぞれの熱意と創意によって、まさに作品として誕生した両美術館の個性をお示しできればと思います。

セクション5 美術を奏でる

本セクションのメイン作品、金沢健一《音のかげら N4》は、鑑賞者が鉄製プレートをマレットなどで叩いて、眼と耳と手で味わう作品です。当館で2000年に開催した個展「共鳴する空間 金沢健一 音のかげら」を機に、滞在制作されました。

ここでは、実際に音の出る金沢作品とあわせて、両美術館が所蔵する、楽譜にみえる（かもしれない）抽象絵画も展示します。立花みどり《プレリュード》は「前奏曲」、増井和弘《クレッシェンド・デクレッシェンド》は「だんだん強く・だんだん弱く」を意味する音楽記号にちなんだ題名です。二村裕子の禁欲的な抽象絵画や、林美紀子の制作時の身振りを感じさせる版画も、楽譜に見立ててみれば、それぞれのリズムやメロディ（あるいは、静寂）が感じとれることでしょう。本展覧会全体のテーマ「共鳴、あるいは不協和音」を、文字通り体感していただければと思います。

なお、金沢健一《音のかげら N4》以外の作品は、叩いたり触ったりされませんよう、お願いいたします。

セクション6 素材とスケール

新津美術館の展示室は、様々な文化芸術事業に対応するべく、天井が高く（スポットライト設置枠まで、約7m）、大きな長方形の空間を、可動壁で自由に区切って使用できるよう設計されています。一方で、可動壁なしの大空間として活用される機会は、近年ほとんど設けられてきませんでした。本セクションは、この展示室を最大限に活かす機会として、新潟市美術館所蔵品より最大規模の2点、クロード・ヴィアラ《無題》（幅約6m）と野田裕示《WORK-1316》（幅約7m）を中心に構成しました。

これら大型作品は、鑑賞者を包み込むスケール感を有する一方で、素材を活かした細部も見どころです。野田作品の入念にコントロールされた絵の具の塗り跡と、あえてむき出しにしたカンバスの端。ヴィアラ作品は画枠さえなく、ふわりと垂れ下がる綿布とムラの目立つ着彩が、独特の遠近感を生み出します。2作品と共に、フェルトによる冨井大裕作品と、類似のイメージをサイズ・技法を変えて表現した張替正次の絵画を展示して、素材とスケールに対する感覚を揺さぶる体験を提示します。